

## 令和4年度第4回全国健康保険協会秋田支部評議会議事録

開催日時：令和5年1月17日（火）10：00～12：00

開催場所：アキタパークホテル 2F プラチナルーム

出席者：松淵評議員（議長）、佐々木（宏）評議員、佐野評議員

佐々木（卓）評議員、畠山評議員、栗盛評議員、近藤評議員（代表別・50音順）

加藤支部長、河上部長、安田部長、青木グループ長、二田グループ長、

今野グループ長、園部グループ長、吉田グループ長補佐、澤口主任、鈴木スタッフ（記）

議事録署名人：近藤評議員、佐野評議員（50音順）

### ■ 議事事項

#### 1. 令和5年度秋田支部保険料率について

資料1-1、1-2に基づき事務局から説明。

#### ○ 質疑応答、意見交換等

##### 【事業主代表】

平均保険料率10%維持はやむを得ないが、事業主としてコロナ禍の現状を鑑みると厳しいものがある。また、準備金のシミュレーションを示していただいているが、より精度を上げたシミュレーションをお願いしたい。

##### 【被保険者代表】

秋田支部は保険料率の算定において、年齢調整や所得調整の影響が大きく、素直に喜べないところではある。

また、令和5年度の保険料率は、引き下げとなることは喜ばしいことだが、今後引き下げられた保険料率をいかに維持していくかが課題であると感じた。

##### 【学識経験者】

以前、秋田支部の平均標準報酬月額が24万円と示されていたが、今回の資料では26万円と示されているのはなぜか。

##### 【事務局】

報酬月額が25万円以上27万円未満の場合、標準報酬月額は26万円となる。令和4年9月時点で秋田支部の平均報酬月額は25万円を超えたため、標準報酬月額26万円を用いて保険料額の増減試算をお示しした。

##### 【事業主代表】

秋田支部の保険料率算定において、年齢調整や所得調整が保険料率の引き下げにつながることは、若干やるせなさを感じるころではある。

しかしながら、令和3年度の精算分やインセンティブ制度による料率減算が令和5年度の保険料率引き下げに反映されたことは喜ばしいことであり、今後も協会けんぽの取組や医療機関等との連携、県民の努力を継続していく必要があると感じた。

また、協会けんぽとしても高齢者医療制度への負担金が増加する状況を鑑みると、国として保険者として高齢者医療制度をどのように持続可能なものにしていくのか考える必要がある。そのうえで、国の審議会など様々な場面で保険者としての意見を発信していただきたい。

#### 【学識経験者】

インセンティブ制度の令和3年度実績において、特定保健指導実施率1位という結果は大変喜ばしい結果である。関係者の努力に敬意を表したい。

#### 【事務局】

保険料率の変動要因、支部固有の課題を認識したうえで、本日いただいたご意見を本部へ報告させていただくとともに、今後も保険料率抑制につながるよう課題解決のための事業を積極的に行ってまいりたい。

### ■ 議事事項

#### 2. 令和5年度秋田支部事業計画（案）及び保険者機能強化予算（案）について

資料2-1、2-2に基づき事務局から説明。

#### ○ 質疑応答、意見交換等

#### 【学識経験者】

健診当日の保健指導の分割実施とはどういう内容かお伺いしたい。

#### 【事務局】

健診当日に、血圧・腹囲・内服薬等の結果から階層化を行い、初回面談を実施。その後、血液検査などの検査結果が全て揃った後、再度指導を行っていく方法が分割実施である。主に検診車などで実施されており、秋田支部でも推奨している。

#### 【学識経験者】

前回の評議会にて、ポピュレーションアプローチと併せてハイリスクアプローチの実施もしてほしいと意見を述べたが、令和5年度の事業計画はその点もよく考えられている印象を受けた。

特定保健指導の対象者を減少させるような成果が見える保健指導を求められているなかで、具体的な減塩対策事業や特定保健指導対象者の拾い出し、鹿角市との共同事業など様々な取組を考えられており、良い事業計画と感じる。

また、栄養士会でもスタッフに対する研修を行っており、その点においても協会けんぽと連携して指導者の資質向上に取り組んでいきたい。

#### 【学識経験者】

前回の評議会にて意見を述べた内容を、鹿角市との共同事業という形で立案していただきありがたく

思う。これをモデルケースに様々な地域に普及していければと考える。

**【被保険者代表】**

加入者のマイナンバー収録率が 98.9%と大変高い収録率である一方、医療機関でのカードリーダーの導入が進んでいない現状も伺っている。協会けんぽとして医療機関に対してカードリーダー導入促進のための働きかけを行ったり、加入者に対してマイナンバーカードの保険証利用に係る広報を行う予定はあるのかお伺いしたい。

**【事務局】**

厚生労働省にて、令和5年4月より医療機関でのカードリーダー導入の義務化が予定されているため、今後導入が進んでいくと思われる。

以前はカードリーダーの参加率が3割未満ほどであったが、令和5年1月1日時点の厚生労働省資料では全国で40.6%、秋田県では50.8%と示されている。

**【学識経験者】**

マイナンバーカードについて、資格喪失後受診の減少や手続きの簡易化等のメリットがあると伺っていたが、実務上可能なのかお伺いしたい。

**【事務局】**

医療機関の窓口で資格喪失後の保険証を提示した場合、喪失後受診となってしまう保険者間調整や返納が必要となるが、保険証の紐づけを行ったマイナンバーカードを提示することで引越しや転職をした場合でも正しい資格で医療機関を受診することが可能である。

今後、マイナンバーカードが普及していくことで喪失後受診は減少していくと思われる。

**【事業主代表】**

小児世代は医療機関の窓口負担がないため、時間外受診による医療費割増についてあまり実感がないように思える。その点についてもきちんと広報する必要があると考える。

**【事務局】**

今年度、2回にわたり情報紙に小児世代の時間外受診の広報を実施済みではあるが、今後も継続的に広報してまいりたい。

**【被保険者代表】**

来年度も運輸支局やトラック協会、バス協会、ハイヤー協会と連携し事業をされるとのことだが、他業種の団体へ連携の働きかけを行う予定はあるのかお伺いしたい。

**【事務局】**

運輸業以外の健康リスクが高い業種へは、連携に向けてアプローチ等丁寧に進めていきたい。

**【事業主代表】**

インセンティブ制度において、各項目の評価が高い支部の取組内容を学び、ぜひ良い取組を秋田支部でも取り入れ実践していただきたい。

また、関係団体との連携において、新入社員研修の中で健康講座の時間を設けてもらうことはできないだろうか。社会人となる人生の節目の時期に、健康意識を高めてもらうのはよい機会と考える。加えて、新入社員研修で学んだことを自分だけでなく、親の生活習慣改善にも役立ててもらえることから、

広い世代の生活習慣改善に効果的ではないか。ぜひ、若い世代の健康教育についても考えていただき、関係団体へ働きかけをおこなってほしい。

**【被保険者代表】**

長年、高血圧対策のため減塩事業に取り組んでいるが、減塩だけでなく体から塩分を排出する効果を持つ食品摂取に関する啓発活動を行ってみてはいかがだろうか。

**【事務局】**

来年度の事業では、減塩といった摂取を控えるような呼びかけだけでなく、野菜やバナナなどのカリウムを積極的に摂取するよう広報していく予定である。

**〔報告事項〕**

**令和4年度上期秋田支部事業報告**

資料3に基づき事務局から説明。

■次回評議会の開催 令和5年3月開催予定